

図書館からのお知らせ

～ 今月のおすすめ本～

《異類婚姻譚

(いるいこんいんたん)》

「ある日、自分の顔が旦那の顔とそっくりになっていることに気が付いた。」

結婚4年の専業主婦を主人公に、他人同士が一つになる「夫婦」という形式の魔力と違和を軽妙なユーモアを込めて描いています。



和紙の里つたー



【第15回 東秩父写友会作品展】

東秩父写友会では、毎年恒例の作品展を下記日程で開催いたします。第15回目となる今回も、さまざまな場所・場面の多彩な作品をご用意してお待ちしていますので、皆さまふるってご覧ください。

記

日時 10月8日(土)
～10日(祝・月)

午前10時～午後4時

場所 東秩父村和紙の里

東秩父村和紙の里 ☎82-1468

みどりの杜俳句会

秋雨や田んぼの道の草のぶる

大久根ケフ

白雲の湧きて真夏の杜の空

富田 とり

村道やまりもの様な栗のいが

山崎 ひろ

夏草の風に吹かれて日にちぢれ

河西カナメ

蟬時雨土塀に穴のあいてをり

田村 好子

仰ぎ見るひまわりの花若きかな

飯野 トヨ

夏夜空火の粉を散らすスターマイン

馬場 芳

鬼百合の一つ一つを蝶めぐり

飯野はつ志

花火どんと響きて山の空に散る

杉田 静枝

そうめんの冷汁旨し夕の膳

高橋 ツ子

背より高く胡瓜蔓伸び一つなる

鈴木 啓子

文

夕暮の山畑に飛び赤とんぼ

野口利江子

秋雨の軒に猫来て雨宿り

関口 真吾

舌つづみ打ちて獅子唐油みそ

大塚 智幸

一粒の雨落ち来たり秋の空

荻野 里美

葉の陰に縞柄見えて西瓜畑

千島さき子

かなかなや霊場巡りの門くぐる

岡部富美子

三年目みかん五つの実の青し

小宮 勉

ひと洗ひ香り広がる茗荷の子

土屋 厚子

千しぎるに梅の香りの残りけり

初雁 功子

梅雨明けの城跡尺八練習す

高野 利雄

嵐外れ葛絡み咲く橋たもと

山田 美子

芸

白石短歌会

敬老の祝いを受けし和太鼓の
胸にしみ入る感動の時

渡邊 京子

廢屋をこわし跡に百合一本
終焉をかざるか群がり咲けり

渡邊美枝子

夜半醒めて窓を開くれば満天の
星煌めきて秋をと思ふ

坂本 美江

荒れ果てし休耕田は整地され
トロロアオイの花咲く山里

白石 礼子

蕎麦打ちて一生送るつもりなくも
客の笑顔に一心の日々

渡邊阿里子

個人の部

写真撮る九月になっても尚青し
初めて見るや春蘭の実を

梅澤 テル

